教科（ 芸 術 ） 科目（ 音 楽 Ⅰ ） 単位数（ 2 ）

類型（ 共通 ・ 文 ・ 理 ） 履修規定（ 必修 ・ 選択 ）

年間目標	教科書・副教材等
1　音楽文化に対する総合的な理解を深め、生涯を通して音楽を愛好しようとする心を育てる。 2　歌唱・器楽・創作などの表現活動や鑑賞活動を通して、感性を高め、創造的な自己表現力を養う。 3　我が国や諸外国の音楽を学ぶことを通して、自国の音楽文化のよさを知ると同時に、諸外国の音楽文化のよさも認め合う心を育てる。	教科書　「MOUSA1」　教育芸術社

期	月	学習内容（予定時数）	学習目標（短期目標）	学習のポイント・観点別評価
1学期	4	リズム・アンサンブル（4）	・楽譜の読み方を復習し、楽典の基礎知識を確認する。	・楽譜の読み方について確認し、演奏に必要な情報を読み取ることができたか。【関心・意欲・態度】
	5	歌唱（8） 校歌 歌曲 ミュージカル音楽	・歌うことの楽しさを感じ取る。 ・呼吸法、共鳴、口形など発声の基本を学習する。 ・音楽表現の多様さに興味を持ち、主体的に取り組む。	・校歌の意義を認識し、元気よく歌えたか。【関心・意欲・態度】 ・楽曲の要素を知覚し、それらを生かした歌唱表現を工夫できたか。【表現の創意工夫】 ・それぞれの曲にふさわしい発声法や、歌い方を身に付け表現できたか。【表現の技能】 ○　実技テスト
	6	鑑賞（3） 交響曲と管弦楽曲	・楽器の特性と表現上の効果を聴き取る。 ・楽曲の種類や演奏形態について理解する。	・楽器の音色や特性を理解できたか。 ・楽曲の文化的背景を理解し、感じたことを自分の言葉で表現することができたか。【鑑賞の能力】 ○　鑑賞ワークシート提出
	7	楽器演奏（9） ギター演奏とアンサンブル	・基本的な奏法とコードネームを理解する。 ・音色の研究をする。 ・各自のパートの役割を認識し、調和を考えた表現を工夫する。	・ギターの基本的な奏法を理解し、音色を工夫しながら課題曲を演奏できたか。【表現の創意工夫】 ・必要な技法を身に付け、パートのバランスを考えた演奏ができたか。【表現の技能】 ○　実技テスト
2学期	8	鑑賞（6） 世界の民族音楽	・様々な国や地域の音楽に触れ、特徴を感じ取る。	・様々な国や地域の音楽の特徴、曲想と音楽を形づくっている要素との関わり、文化的・歴史的背景を理解して鑑賞することができたか。【鑑賞の能力】 ○　鑑賞ワークシート提出
	9			
	10	日本の音楽（8） 篠笛の演奏	・日本の音楽に触れ、文化の一端を理解する。	・和楽器の演奏を通し、日本の音楽の特徴を体験し、旋律と音色の美しさを味わい、表現意図をもって活動に取り組めたか。【表現の創意工夫】

期	月	学習内容（予定時数）	学習目標（短期目標）	学習のポイント・観点別評価
2学期	10 11	合唱　（9）	・歌詞の内容や曲想を生かして、声部の役割を理解し、全体の響きに調和させて、表現を工夫する。	・発声法やハーモニーに配慮し、曲想に応じた表現を工夫できたか。【表現の創意工夫】 ・ア・カペラ特有の響きを感じ、音程に配慮して演奏することができたか。【表現の技能】 ○　実技テスト
	12	鑑賞　（5） オペラ・歌舞伎	・劇音楽の様式や特徴を学習し、そのよさを味わう。	・オペラや歌舞伎に興味を持ち、総合芸術の特徴を理解できたか。【鑑賞の能力】 ○　鑑賞ワークシート提出
3学期	1 2	創作　（6）	・作曲をするために必要な要素を学習し、様々な手法を創造的に用いて意欲的に活動する。	・様々な方法に挑戦して、効果的な手法を見付け出したか。【表現の創意工夫】 ・自分のイメージにあった作品を作ることができたか。【表現の技能】 ○　作品提出
	3	発表会　(12)	・アンサンブルの特徴を理解し、そのよさや美しさを、根拠を持って批評する能力を育てる。	・声部のバランスに注意しながら、調和のとれたアンサンブルができたか。【表現の創意工夫】 ・相互の表現に関して、音楽経験に照らし合わせ批評的に鑑賞することができたか。【鑑賞の能力】 ○　鑑賞ワークシート提出
評価の方法		1　評価は、【関心・意欲・態度】【表現の技能】【表現の創意工夫】【鑑賞の能力】について、総合的に行う。 2　各学期の成績は、実技テストや鑑賞ノート・創作作品の観点別評価に準備物や練習態度等の授業に対する心構えを加味し、100 点満点で算出する。学年末の成績は、１・２学期の成績と３学期の成績を基に総合し算出する。		

○　音楽Ⅰの学習法

１　基本的な心構え

音楽の幅広い活動、中でも技能の習得や音楽美の知覚・享受の中には、知的なものと感覚的なものが含まれている。その両方を培う。

また、自分の個性を磨く一方、協調性がなければ、感動体験の共有はあり得ない。これは、音楽の授業を受ける上で重要な課題になる。

主体的、協働的な学びを通して、自らの考え・意志・行動を築き上げていく能力が求められる中、多様な文化や芸術に触れ、音や音楽との出会いを積極的に求め広げ深めていく姿勢を身に付ける。

２　学習の方法

⑴　歌唱・器楽・創作・鑑賞の幅広い活動を行う。積極的な活動を第一に考え、活動意欲や音楽表現の工夫について考える姿勢を大いに評価する。様々な音楽活動を通して、創造的な表現力と鑑賞の能力を伸ばしていくよう心掛ける。

⑵　音楽の授業では各自の意欲ある活動と協調性が不可欠である。特に合唱やアンサンブルの授業では協力と調和が必要になってくる。主体的・協働的な活動を通して、自己の表現力を向上させ、お互いに感性を高め合う。

⑶　篠笛などの和楽器演奏を経験する。我が国の伝統音楽に触れることで、日本文化について興味を持ち、そのよさを深く知ろうとする態度を培う。

⑷　音楽と他教科とのつながりを大切にする。詩を読むこと、外国語の歌を原語で歌ってみること、日本や世界の歴史を知ること、音を数学的に物理学的に理解すること、演奏を運動能力と結び付けてみることなど、自分の得意とする分野から音楽の新しい発見をする。